Faculty Development

日本大学 FD NEWSLETTER

WINTER 2021 VOL 17

Contents

日本大学オンライン授業に関するシンポジウム

予期せぬ事態を乗り越え，学びの進化の機会に 日本大学 FD 推進センター 副センター長　**藤井孝宜** 2

【第１回シンポジウム】内容紹介

❶オンラインツールを利用した大規模授業運営の工夫　**芸術学部 准教授 吉野大輔** 3

❷ライブ・オンデマンド併用型による体育実技の授業展開例　**スポーツ科学部 専任講師 澤野大地**

【第２回シンポジウム】内容紹介

【報告】令和２年度前学期学部内オンライン授業アンケート結果より ～学生満足度９割を達成した組織対応と取組～

歯学部 准教授 松本邦史

【第３回シンポジウム】内容紹介

「Zoom」を利用した語学授業の成功モデル ～アクティブ・ラーニング導入から，前学期の課題の検討まで～ 4

商学部 准教授 山﨑明日香

【第４回シンポジウム】内容紹介

学部２年生の微生物学実験の実験操作動画を配信するまで ～撮影から動画編集まで～

生物資源科学部 准教授 中川達功

COVER PHOTO

第１回～第４回までのシンポジウムに登壇した教員の面々。大勢の教員が，できる限り今までの授業の質を担保しようと，さまざまな工夫を凝らし奮闘した 2020 年。その取組過程の苦労や成果が語られた。

日本大学オンライン授業に関するシンポジウム

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，令和２年度の前学期は，全学で多くの授業をオンラインで実施しました。後学期も原則，授業はオンラインで行うことを継続しています。そこで，ＦＤ推進センターでは，オンライン授業についての情報共有と授業手法の改善を図るため，シンポジウムを開催しました。第１回～第４回の様子をご紹介します。

日本大学オンライン授業に関するシンポジウム開催に際して

予期せぬ事態を乗り越え，学びの進化の機会に

日本大学 FD 推進センター副センター長 生産工学部 教授 藤井孝宜

総合大学としての総合力を集結し，新しい教育形式の創出を目指して

新型コロナウイルスの感染拡大は，当たり前に存在した日常を奪い去り，私たちは新しい生活様式への転換を余儀なくされました。

その影響は通常の生活に留まらず，大学を取り巻く環境を大きく変えることとなり，対面の授業形式からオンライン授業への対応が私たち教員に急遽突き付けられました。

各学部が手探り状態で出発せざるを得なかった前学期でしたが，その間で蓄積されたオンライン授業への取組における失敗や改善を後学期へと生かすべく全学的な情報共有や改善を目的として企画されたものが，「オンライン授業に関するシンポジウム」です。

ＦＤ推進センターでは多くの情報共有の場を提供すべく月１回の頻度で本シンポジウムを開催していく方針を示し，実施してきました。オンライン開催の気軽さと授業改善のヒントを発している状況がマッチした結果，第５回を終えて実に延べ 1,822 名の教職員の参加をいただく結果を得ております。また，授業は教員からの一方通行では成立せず学生の視点による改善も必要であることから，第５回では，学生ＦＤ CHAmmiT の結果を共有し，今後の授業改善に向けた意見交換も行いました。

社会においては３密が避けられていますが，学生を中心に教員・職員がオンラインの状況下においては，密に連携を取り合い改善に努めていかなければなりません。オンラインの手法により時間や場所にとらわれず，手軽に多人数への発信が可能となりました。点在する学部を繋ぎ，総合大学としての総合力を結集し，新しい教育形式を創出できるよう，本シンポジウムを引き続き運営していきます。みなさまの御参加をお待ちしております。

日本大学オンライン授業に関するシンポジウム　実施内容

第１回	8/8	【報告】オンライン授業アンケート中間報告／オンライン授業紹介（芸術学部・スポーツ科学部・理工学部・薬学部）／【講演】オンライン授業における著作権等の取扱いについて
第２回	9/5	【講演】Zoom 社による設定・基本機能説明／オンライン授業紹介（法学部・生産工学部）／【報告】オンライン授業アンケート経過報告／【報告】歯学部内調査より，学生満足度９割を達成した組織対応と取組
第３回	10/17	オンライン授業紹介（文理学部・商学部・工学部・松戸歯学部）／【報告】文理学部内調査より，遠隔授業の形態と教育効果について／【講演】コロナ禍における教職員の学生支援について考える
第４回	11/7	オンライン授業紹介（経済学部・国際関係学部・危機管理学部・生物資源科学部）／【講演】コロナ禍における教職員の学生支援について考える２
第５回	12/19（次号で紹介予定）	令和２年度日本大学学生 FD CHAmmiT 成果報告／オンライン授業改善に向けた意見交換

第１回シンポジウム 【オンライン授業紹介から】工夫された授業運営や資料作成

❶ オンラインツールを利用した大規模授業運営の工夫
「人間の心理Ⅰ」「自主創造の基礎Ⅰ」

芸術学部 准教授 吉野大輔

「人間の心理Ⅰ」は 800 名以上，「自主創造の基礎Ⅰ」は 900 名以上の学生が履修する大規模授業です。「Google Meet」や「Zoom」を用いることができない大規模授業において，双方向性のあるオンライン授業をどのように行ったのか，その方法が紹介されました。

吉野大輔准教授は，「人間の心理Ⅰ」で「YouTube Live」を活用。「チャット欄を利用すれば，学生との質疑応答をリアルタイムに行えるため，大規模授業においても双方向性が保てる」と，自身の授業動画を交え，その様子を紹介しました。

一方「自主創造の基礎Ⅰ」では，「Google Meet」や「Jamboard」を活用して，６人程度の少人数でグループワークを実施。オンラインでも実施可能なグループワークの方法が共有されました。ただ，従来の対面授業では，議論が盛り上がらないグループには，教員が個別にフォローすることが可能でしたが，オンラインではそうした支援がしにくいため，「ファシリテーションに難しさがある」と話しました。

「人間の心理Ⅰ」では，教員の問いかけに，学生はリアルタイムで答えていく。

最後に，オンライン授業において，心身の不調や障害のある学生をどのように支援するかも重要な問題だとし，それらの改善が後学期の課題だと，吉野准教授は述べました。

❷ ライブ・オンデマンド併用型による体育実技の授業展開例
「スポーツ実技」

スポーツ科学部 専任講師 澤野大地

「スポーツ実技」は，正しいストレッチやランニングの方法を学び，運動を実践することの意義を学ぶスポーツ科学部の必修科目です。オンライン環境下でも，学生が自宅などで実技を実践し，正しい実技を学べるようライブ配信と録画動画のオンデマンド配信を併用した授業事例が報告されました。

実技動画は，スマートフォンで撮影し，テロップなどもつけ見やすく編集。

ライブ配信する部分は，「Google Meet」を活用。澤野大地専任講師は，「学生の体調確認や実技に関する注意を行いながら実施している」と，ライブによる学生とのコミュニケーションの重要性について述べました。オンデマンドの実技動画は「Google Classrooom」で配信し，学生は，授業中に動画を視聴し，実技を実践します。授業後は「Google Forms」で小テストを実施し，課題となる実技を行う様子を自身のスマートフォンで撮影させて「Google Classroom」で提出させることで，「学生の取組状況も確認が可能である」と話しました。また，学生が取り組みやすいよう動画にテロップや音楽を入れるなど，編集上の工夫についても共有がありました。

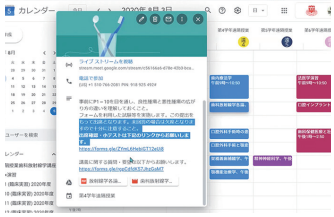
学生アンケートでは，同授業の満足度は高く，実技科目におけるオンライン授業の可能性を示しました。

第２回シンポジウム 【アンケート結果報告から】満足度の高い授業実現のための取組

【報告】令和２年度前学期学部内オンライン授業アンケート結果より
～学生満足度９割を達成した組織対応と取組～

歯学部 准教授 松本邦史

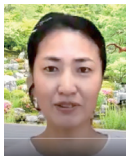
歯学部では，2020 年３月中旬に遠隔授業対策小委員会を設置し，３月末からオンライン授業を導入しました。同委員会がシステム構築のポリシーとして掲げたのは，「学生が迷わないようにする」ことです。同学部の学生は Google アカウントを持っているため，オンライン授業は「Google Meet」のライブストリーミングで配信。各授業の資料配付や出欠確認，小テスト，質問受付などは，すべて「Google カレンダー」に集約するように，教員に依頼しました。６月下旬に実施したアンケートでは，９割以上の学生がオンライン授業に満足していると回答。「今後は，オンライン授業の学修効果について検証したい」と松本邦史准教授は話しました。



授業名をクリックすると，予習から復習までのすべての流れがわかる仕組み。

第3回シンポジウム 【オンライン授業紹介から】オンラインでのアクティブ・ラーニングの実践例

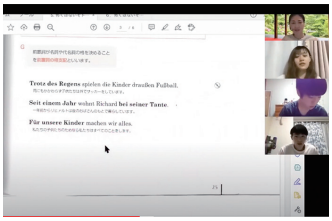
「Zoom」を利用した語学授業の成功モデル
～アクティブ・ラーニング導入から，前学期の課題の検討まで～



商学部 准教授 山﨑明日香

商学部の語学の授業では，「Zoom」を活用した双方向のオンライン授業を実施しています。ドイツ語を担当する山﨑明日香准教授は，自身の授業動画を提示しながら「教科書や資料に加えて，動画も共有しながら，授業を展開。また，学生の細かい発音も聞くことができるため，オンラインでも丁寧な指導が可能」と話し，双方向性授業のメリットを具体的に説明しました。また，「Zoom」のブレイクアウトルーム機能を用いて，アクティブ・ラーニングも実施。3～4人のグループで海外の文化について調べてもらい，発表する活動を行っていると紹介しました。

学生アンケートの結果では，「発言の機会が多くてよい」「少人数のグループ活動が充実している」という肯定的な意見が多かった一方で，恥ずかしいため画面をオフにして参加する学生もいるそうです。そこで，山﨑准教授は，授業の最後には，少人数で発音矯正をする時間や相談コーナーを設け，学生個々の問題にも対応していると説明しました。



少人数のグループにすれば，学生の発音もチェックでき，口頭試問も可能だ。

第4回シンポジウム 【オンライン授業紹介から】オンラインによる“実験”授業の実践

学部2年生の微生物学実験の実験操作動画を配信するまで
～撮影から動画編集まで～

生物資源科学部 准教授 中川達功

中川達功准教授は，担当する学部2年生の必修科目「微生物学実験」において，自身で実験を行いながら実験操作を説明する動画を学生に配信しています。

撮影は，「GoPro」という小型のカメラを取り付けたヘルメットを装着して行いました。「GoPro」を活用した理由は，学生自身が実験をしているような目線で撮影できること，手振れを自動で補正する機能があるため比較的見やすい動画を簡単に撮影できることなどを挙げました。また，編集には「iMovie」を利用。実際の編集作業の様子も動画で紹介しました。

同科目の履修者は約70名で，教員1名で丁寧な指導を行うためには，以前から動画による技術指導の必要性を感じていたという中川准教授。「今後，動画と実技によるハイブリッド型の授業が普及していくのではないか。学生は，事前に動画を見ておき，授業では，実験を行いながら技術を習得する場とすれば，より質の高い教育が実現できるだろう」と述べました。

実験者の目線で動画を撮影し，実験器具の使用の仕方などを紹介した。

Zoom社によるトレーニングを開催

本学では9月1日以降，オンラインツール「Zoom」を全学で導入しました。それに伴い，Zoomの基本操作や授業運営に特化した機能を，Zoom社のトレーナーから直に学ぶセミナーを開催し，延べ2,000名を超える教員が受講しました。

※本ニューズレターに記載した役職・資格・学年等は，令和2（2020）年12月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第17号
発　行　日：令和3(2021)年1月1日〔年2回発行〕　◎次号は令和3(2021)年3月1日発行予定
発　行　者：日本大学FD推進センター センター長 本田和也
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24　電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp　http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/
所 管 部 署：日本大学 本部 学務部学務課　企画・編集：日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら，学務部学務課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

本ニューズレターに掲載した文章，写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2020 All Rights Reserved.